



岩村醸造前にて、度會延彦会長、鹿野正春社長、鈴木隆一いむら理事長。



岩村の商店街で、作者北川悦史子さん。



ここが主人公の生家「かんかい屋」



岩村醸造の店内にて、度會会長。



朝ドラの舞台となった岩村の町並み



度訪ねて来られたとか。試飲させて頂いた各銘酒はどれも、スッキリと澄み切った後味で、喉越しも涼やかで、誰からも好まれる純米酒です。景観田畑日本の当地で穫れた酒造米を使い、地元で長く流通し、皇太子殿下もご愛飲の銘酒とのこと。最近地酒で目ぼしいものもなく、0-1テストでも好成績。佐藤一斎に因んだ純米酒「一斎」、織田信長の強く美しい叔母お直の方に因んだ純米生酒「女城主」を仕入れることにしました。当日、突然の事、時間もなく、酒作りの現場を拝見する訳にもいかず、後日取材に訪れての報告をお楽しみに、その仕入れ理由も明かしたいと思います。

2月17日、中津川のサラダコスモ社チコリ村にて、「木曾路を偲ぶ会」から講師として招かれ、『日本力』というテーマで、3時間半にわたってお話させて頂いた。隣町の恵那市と言え、モンゴル塩や重曹でお馴染みの「木曾路物産」さんの在所。前日、鹿野社長に案内されて恵那の岩村町に向かった。サラダコスモ社のチコリ村は、オーガニックもやしからチコリ酒まで製造する稀有な先進企業であるが、その中田智洋社長は、岩村出身の江戸時代の儒学者、佐藤一斎を尊崇し、その思想哲学を普及しながら、チコリ村店内で一斎さんの教えを広めている。それで、是非とも、その出身地をこの目で確かめたかったのである。着いてみると、あの明治期、実践女子学園を設立した女傑・下田歌子を輩出した村でもあり、この小さい村落から数多、傑物志士が出たのは驚



動したことをお話したほど。若き永野芽郁さんが演じるヒロイン・榎野鈴愛の生家になった家屋もあり、何とも言えない風情が、町全体から醸し出されて、心が溶きほぐされます。そこで鹿野さんに案内さ

嘆すべきことだった。そして、この4月から始まったNHK朝ドラ「半分、青い。」の舞台ともなった「ふくろう町」が、何とこの岩村。五平餅の看板が連なる街並みと、現岩村の商店街で撮影されたとか。電柱など地下に埋設され、そこを通るや、瞬時にして明治大正ロマンのレトロな雰囲気に逆戻り。私は、たちまちにして、この街の虜になった。翌日の講演では、2回もこの岩村に感



※「一斎」「女城主」各種入荷中です。